令和6年度（2024 年度）シラバス

令和6年度入学生（1 学年）用

滋賀県立八幡工業高等学校

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
現代の国語	国語科	2	1年	全組	全期

項目			内容
学習の目標			・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
教科書 (出版社名)			新編 現代の国語（数研出版）
副教材・ 参考書			新版 意味から学ぶ常用漢字（第一学習社）
評価法			定期考査・小テスト・ノート・パフォーマンス課題（配布プリント）・振り返りシート
評価の観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使っている。
	b	思考・判断・表現	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解したり効果的に表現したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。
	c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会と関わったり、思いや考えを深めたりしようとするとともに、言葉の価値を確認し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５ の５ 段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
４月	目指す世界の地図を作る【書くこと】【読むこと】７ｈ	・各自が現在持っている夢や目標を文章にする。 ・評論の読み方を踏まえ、文章を読む。	考査 小テスト ノート 配布プリント	考査 小テスト ノート 配布プリント	ノート 配布プリント
５月	ものづくり【書くこと】８ｈ	・内容や構成などを理解し、「ものを大切にする」とは、どういうことか。本文を踏まえてまとめる。	考査 小テスト ノート 配布プリント	考査 小テスト ノート	ノート 配布プリント
６月・７月	時間とは何か【話すこと・聞くこと】８ｈ	・文章の構成を接続語に注意してまとめる。 ・「日常の中で感じ取る時間」について、各自が考えプリントにまとめ、クラスで発表する。	考査 小テスト ノート 配布プリント	考査 小テスト ノート	小テスト ノート 配布プリント
９月	水の東西【読むこと】６ｈ	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。	考査 小テスト ノート	考査 小テスト ノート	ノート 配布プリント
10 月	＊適切な書式で通知する【書くこと】８ｈ	・手紙・メールの書式の違いを踏まえて通知文を書く。	ノート 配布プリント	配布プリント	配布プリント
11 月	日常の中の文章【書くこと】９ｈ	・話し言葉と書き言葉の特徴を踏まえ、分かりやすさに配慮した表現について理解する。	ノート 配布プリント	小テスト ノート 配布プリント	小テスト ノート 配布プリント

12 月	＊必要な情報を整理して書く 【書くこと】８ｈ	＊書くことにおいて、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を捉える。	考査 配布 プリント	配布 プリント	配布 プリント
１月	「わらしべ長者の経済学」 【読むこと】８ｈ	・読むことにおいて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を捉える。	考査 小テスト ノート 配布 プリント	考査 小テスト ノート 配布 プリント	小テスト ノート 配布 プリント
２月・３月	社会の中の文章 【書くこと】 【話すこと・聞くこと】８ｈ	・読み手が必要とする情報に応じて企画書を書いたり、集めた情報と検討内容を資料にまとめ、発表したりする。	考査 配布 プリント	配布 プリント	配布 プリント

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
言語文化	国語科	2	1年	全組	全期

項目			内容
学習の目標			・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げ深めることができるようになる。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
教科書 （出版社名）			新言語文化（三省堂）
副教材・ 参考書			なし
評価法			定期考査・小テスト・ノート・パフォーマンス課題（配布プリント）・振り返りシート
評価の観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の言語文化に特徴的な語句を知り、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。
	b	思考・判断・ 表現	作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係性を踏まえ、内容の解釈を深めている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５ の５ 段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4月	入門【読むこと】 3h	〔千年の時が与えてくれる安堵〕 ・古典学習について考える。『枕草子』の文学史を学ぶ。	考査、 ノート	ノート	ノート
4月	読書は生きる力～ 読書の意義について考える 【読むこと】 6h	〔『枕草子』ありがたきもの〕 ・歴史的仮名遣いについて学ぶ。 ・音読し傍訳を参考に大意を捉える。 ・筆者が「ありがたし」として捉えている事項やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考えまとめる。	考査 配布 プリント ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
5月	読書は生きる力～ 読書の意義について考える 【読むこと】6h	〔『故事』虎の威を借る〕 ・漢文入門について学ぶ。 ・音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 ・この話がどのようなことを意味しているか考えまとめる。	考査 配布 プリント ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
6月	読書は生きる力～ 読書の意義について考える 【読むこと】7h	〔『ゴール』・物語の解釈の多様さを考える。 ・登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。	考査 ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
7月・9月	物語は無限に展開する～構成や展開について考える 【読むこと】6h	〔『沙石集』児の飴を食ひたること〕 ・音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 ・「坊主」「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。	考査 ノート 配布プリント	考査 配布 プリント	振り返り シート

9月・10月	物語は無限に展開する～構成や展開について考える【読むこと】12h	〔『羅生門』〕 ・場面設定を確認する。 ・「下人」の心情の変化を確認する。 ・「老婆」の発言の内容をまとめる。 ・「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話しあう。	考査 ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
11月	物語は無限に展開する～構成や展開について考える【読むこと】6h	〔『説苑』景公之馬〕 ・音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 ・「晏子」の発言や行動の意図を考える。 ・「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったかまとめる。 ・文章の内容をまとめ、発表する。	考査 ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
12月	人の心は万華鏡～人物像や心情について考える【読むこと】7h	〔『オムライス』〕 ・特徴的な表現をもとにしながら、「男の子」の心情を説明し、心情の変化を捉える。 ・「本」を拾ったことをきっかけに、「男の子」がどのように変化したか捉える。	考査 ノート、 配布プリント	考査 配布 プリント	振り返り シート
1月	言葉は時空をかけめぐる～言語文化の継承と創造について考える【読むこと】8h	〔『伊勢物語』芥川〕 ・音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 ・前半部の「男」の行動を整理する。 ・和歌の修辞について学習する。 ・和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。	考査 ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント
2月・3月	共感は海を越える～言語文化の交流について考える【書くこと】9h	〔漢詩四編〕 ・漢詩の規則を学ぶ。 ・漢詩を音読する。 ・それぞれの漢詩の心情を、漢詩が作られた時代や作者の背景を踏まえて捉える。 ・四編の漢詩の中から一編選び、感想や印象を文章にまとめる。	考査 配布 プリント ノート	考査 配布 プリント	考査 配布 プリント 振り返り シート

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
数学Ⅰ	数学科	３	1年	全組	全期

項目			内容
学習の目標			数と式、２次関数、集合と命題、図形と計量及びデータの分析の基本的な概念や原理、法則を体系的に理解し、事象を数学化することや数学的に解釈することで、数学的な処理が出るようにする。また、数学的な見方、考え方や、数学的な活動を通して数学的な知識・技能を身に付けられるようにする。更に、数学の良さを認識し、生活や学習での活用を実感していくことで数学への意欲、関心が高まり、積極的に学ぶ力を育む。
教科書 (出版社名)			新編数学Ⅰ(啓林館)
副教材・ 参考書			配布プリント
評価法			定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（レポート発表、プレゼンテーション）ノート
価観点	a	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化し、数学的に解釈し表現、処理できる。
	b	思考・判断・ 表現	事象の本質や他の事象との関係を数学的に考察し、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現できる。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	数学の良さや楽しさを認識し、活用しようとする態度、粘り強く考えて数学的論理に基づいて判断したり考察を深めたり、評価・改善することができる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
４月/９回	数と式	多項式とその加法・減法・乗法、因数分解 ＊式の計算ができる。 ＊因数分解の公式の理解を深め、工夫して解ける。	小テスト 中間考査	小テスト 発表 中間考査	ノート 発表 振り返り シート
５月/11 回	数と式	実数、根号を含む計算 ＊数を実数まで拡張する意義を理解できる。 ＊簡単な無理数の計算ができる。			
６月/12 回	数と式	一次不等式 ＊不等式の解の意味や基本的な性質を理解できる。 ＊不等式の解を求められる。	小テスト 期末考査	小テスト 発表 期末考査	ノート 発表 振り返り シート
７月/６回	２次関数	関数とグラフ ＊２次関数の値の変化やグラフの特徴を理解できる。			
９月/12 回	２次関数	２次関数の最大・最小、２次方程式 ＊２次関数の最大値、最小値を求められる。 ＊２次方程式が解ける。 ＊２次方程式の解が判別できる	小テスト 中間考査	小テスト 発表 中間考査	ノート 発表 振り返り シート
１０月/11 回	２次関数	２次関数のグラフと x 軸の共有点、２次不等式 ＊２次方程式の解と２次関数のグラフの関係を理解できる。 ＊２次関数のグラフを用いて２次不等式が解ける	小テスト 中間考査	小テスト 発表 中間考査	ノート 発表 振り返り シート
１１月/12 回	集合と命題 図形と計量	集合、命題と集合、逆・裏・対偶 ＊集合や命題の基本的な概念を理解できる。 ＊集合の考えを用いて論理的に考察し、逆・裏・対偶も理解し、簡単な命題の証明ができる。 鋭角の三角比 ＊直角三角形を用いた三角比の意味と相互関係を理解できる。	小テスト 期末考査	小テスト 発表 期末考査	ノート 発表 振り返り シート
１２月/７回	図形と計量	三角比の拡張、 ＊三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比を用いて鈍角の三角比を求めることができる。	小テスト 中間考査	小テスト 発表 中間考査	ノート 発表 振り返り シート

１月/10 回	図形と計量	正弦定理、余弦定理、図形の計量 ＊正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求められる。 ＊日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、三角比や正弦定理、余弦定理が問題解決に活用できることを実感する。	小テスト 学年末考査	小テスト 発表 学年末考査	ノート 発表 振り返りシート
２月/９回	データの分析	データの整理と分析、 ＊分散、標準偏差、散布図及び相関関係の意味や活用のしかたが理解できる。 ＊データを表やグラフに整理し、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。	小テスト 学年末考査	小テスト 発表 学年末考査	ノート 発表 振り返りシート
３月/６回	データの分析 課題学習	統計的探究プロセス、課題学習発表 ＊ＰＰＤＡＣを使って、事象のより良い結論を導くためのプロセスを経験し、判断や考察ができる。 ＊数学Ｉの各内容で学習したことを統合したり、日常の事象や他教科の学習と関連付けたりして発見したものや自分が疑問を持っている事象等について主体的に学習し、自分の考えを発表したり議論したりできる。	レポート	発表	ノート 発表 振り返りシート

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
公共	公民科	2	1	全組	全期

項目			内容
学習の目標			現代の社会の諸課題について、政治・経済・国際問題などの基礎的な内容を学ぶとともに、諸課題を考察・判断するための情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、主体的に解決しようとする態度を養う。
教科書 (出版社名)			高等学校　新公共（第一学習社）
副教材・ 参考書			クローズアップ公共
評価法			定期考査、パフォーマンス課題（スピーチ発表、レポートなど）、学習プリント、振り返りシート
評価観点	a	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、および倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	b	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
	c	主体的に学習に取り組む態度	国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～10 の 10 段階）にまとめます。 学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
1 学期 4 月	第１編第１章 公共的な空間をつくる私たち	「大人になるということはどういうことか」等 青年期に生きる自己形成の課題について考察する	中間・期末考査 小テスト	中間・期末考査 学習プリント レポート	スピーチ発表 ふり返りシート
1 学期 5 月	第１編第２章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	「功利主義と幸福の原理」等 行為選択の理由づけについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する			
1 学期 6 月	第１編第３章 公共的な空間における基本的原理	「民主主義とは」等 社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する			
1 学期 7 月 ～ 2 学期 9 月	第２編第１章 法的な主体となる私たち	「法や規範の意義と役割」等 社会規範における法の特色，法の役割，法の区分とそれぞれの特色について理解する	中間・期末考査 小テスト	中間・期末考査 学習プリント レポート	スピーチ発表 ふり返りシート
2 学期 10 月 ～12 月	第２編第２章 政治的な主体となる私たち	「地方自治・国会・内閣の仕組みと役割」等 地方自治の課題や政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察する			
3 学期 1 月 ～3 月	第２編第３章 経済的な主体となる私たち 第３編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	「市場経済のしくみ・金融のしくみ・財政の働き」等 市場のメカニズムや経済指標、景気変動と物価、金融システム、財政の機能について実際の事象とも関連させながら理解する 　公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う	期末考査 小テスト	期末考査 学習プリント レポート	スピーチ発表 ふり返りシート

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
化学基礎	理科	2	1年	全組	全期

項目		内容	
学習の目標		物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す	
教科書（出版社名）		i 版化学基礎　（啓林館）	
副教材・参考書		配布プリント、化学基礎の基本マスター新訂版（啓林館）	
評価法		定期考査、小テスト、授業への取り組み、出席状況、 提出物（プリントファイル、ワーク）、 パフォーマンス課題（プレゼンテーション、レポート等）で評価します。	
評価観点	a	知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
	b	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
	c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4月 6時間	化学と物質	物質の構成／元素と単体・化合物／ 粒子の熱運動と物質の三態	考査 小テスト レポート	考査 レポート プレゼンテーション	授業への取り組み 出席状況 提出物（プリントファイル、ワーク） プレゼンテーション
5月 8時間	物質の構成粒子	原子の構造／同位体／電子配置／ イオンの生成／元素の周期表			
6月・7月 8時間	化学結合	イオン結合／共有結合と分子／ 共有結合結晶／金属結合と金属			
9月・前期10月 10時間	物質量と化学反応式	原子量／分子量・式量／溶液と濃度			
後期10月・11月 10時間	物質量と化学反応式	化学反応式／化学変化の量的関係／ 過不足のある化学変化の量的関係			
12月 4時間	酸と塩基	酸と塩基の定義／水の電離と pH			
1月 6時間	酸と塩基	中和と塩／滴定曲線			
2月 8時間	酸化還元反応	酸化と還元の定義／酸化剤と還元剤			
3月 3時間	酸化還元反応	酸化還元反応の反応式／イオン化傾向			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
体育	保健体育科	３	１年	全組	全期

項目			内容
学習の目標			体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、継続的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成します。
教科書 (出版社名)			現代高等保健体育（大修館書店）
副教材・ 参考書			現代高等保健体育ノート（大修館書店）、選択制体育個人学習ノート（大修館書店）、体操服、体育館シューズ、グラウンドシューズ、水泳着、剣道着、竹刀等
評価法			個人学習ノート、授業活動の観察、実技テスト等を３観点で総合的に評価します。
評価 観点	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けようとしているか評価します。
	b	思考・判断・ 表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、継続的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝える力を養おうとしているか評価します。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしているか評価します。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4 月	オリエンテーション 体つくり運動	年間計画の説明、体ほぐし運動、体つくり運動等	観察 ノート 実技 テスト	観察 ノート	観察 ノート
5 月～7 月	種目選択制	水泳、陸上競技 （水泳、陸上から１種目を必ず選択）	観察 ノート 実技 テスト	観察 ノート	観察 ノート
	体育理論	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ	観察 ノート	観察 ノート	観察 ノート
9 月～ 10 月中旬	種目選択制	ソフトボール、サッカー、卓球、バドミントン （１年間でゴール型・ネット型・ベースボール型から ２つ以上の型を選択）	観察 ノート 実技 テスト	観察 ノート	観察 ノート
	体育理論	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	観察 ノート	観察 ノート	観察 ノート
10 月中旬 ～12 月	種目選択制	ソフトボール、ラグビー、ソフトテニス、バレーボール （１年間でゴール型・ネット型・ベースボール型から ２つ以上の型を選択）	観察 ノート 実技 テスト	観察 ノート	観察 ノート
1 月～3 月	体育理論	スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	観察 ノート	観察 ノート	観察 ノート
	種目選択制	サッカー、ラグビー、剣道、バスケットボール （１年間でゴール型・ネット型・ベースボール型から ２つ以上の型を選択）	観察 ノート 実技 テスト	観察 ノート	観察 ノート

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
保健	保健体育科	1	1年	全組	全期

項目			内容
学習の目標			保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成します。
教科書 (出版社名)			現代高等保健体育（大修館書店）
副教材・ 参考書			現代高等保健体育ノート（大修館書店）
評価法			定期考査、パフォーマンス課題、ノート、ノートを活用した振り返りで評価します。
評価 観点	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか評価します。
	b	思考・判断・ 表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養えているか評価します。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養えているか評価します。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4 月	現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	定期考査 学習 ノート 小テスト 実技 テスト (応急手当・ 心肺蘇のみ)	定期考査 ノート による 振り返り 小テスト	学習 ノート パフォー マンス 課題
5 月	現代社会と健康	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防			
6 月	現代社会と健康 安全な社会生活	がんの治療と回復 応急手当の意義とその基本			
7 月	安全な社会生活	日常的な応急手当 心肺蘇生法			
9 月	現代社会と健康	運動と健康 食事と健康			
10 月	現代社会と健康	休養・睡眠と健康 喫煙と健康			
11 月	現代社会と健康	飲酒と健康 薬物乱用と健康			
12 月	現代社会と健康	精神疾患の特徴 精神疾患の予防			
1 月	現代社会と健康	精神疾患からの回復 現代の感染症			
2 月	現代社会と健康	感染症の予防 性感染症・エイズとその予防			
3 月	現代社会と健康	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
美術Ⅰ	芸術科	2	1年	全組	全期

項目		内容	
学習の目標		絵画、デザイン、彫刻等多岐に渡る制作と、様々な作品を鑑賞する中で、自分の感性に問いかけ創造性を豊かにする。	
教科書 （出版社名）		美術Ⅰ（光村図書出版）	
副教材・ 参考書		なし	
評価法		制作に取り組む中で積極的に向かい合う姿勢を重要視し作品提出などで総合的に判断する。 作品提出、作品制作、鑑賞、振り返りシート	
評価 観点	a	知識・技能	いろいろな素材を用いて基本的な表現方法を知り、より積極的な表現をすすめ、その楽しさを知る。
	b	思考・判断・ 表現	歴史や世界に目を向け、豊かな想像の世界があることに気付く。参考作品や友達の作品の制作意図や工夫に気付き、機能と美しさと調和を味わう。主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	身のまわりの物や自然から豊かに感じ、思考を深める。制作や鑑賞する中で表現に興味を持ち、意欲的に取り組む。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数 など	題　材	授業内容	評価観点		
			a	b	c
１学期　４月	第一章 ・基礎	オリエンテーション、スケッチ	実技 課題	実技 課題 感想 カード	実技 課題 振り返り シート 感想 カード
５月	・デザイン基礎	色彩演習			
６～７月	第二章 ・ミクストメディア	平面と立体の組み合わせで構成する絵画作品制作			
２学期 ９~１０月	第三章 ・彫刻	塑像によるフィギュア制作			
１１月~１２月	第四章 ・ドローイング	複数人で行う会議手法を用いたドローイング作品の制作		発表 実技 課題 感想 カード	
３学期 １~２月	第五章 ・イメージ表現	選定した歌詞から情景を想像し表現を追求する表現作品の制作		実技 課題 感想 カード	
３月	第六章 ・鑑賞	時事に合った芸術作品の鑑賞			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
英語コミュニケーションⅠ	英語科	３	１年	全組	全期

項目		内容	
学習の目標		外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、総合的な言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	
教科書 (出版社名)		COMET English Communication Ⅰ　（ 数研出版 ）	
副教材・ 参考書		COMET ベーシックノートⅠ（数研出版）、COMET 基本文法定着ドリル１（数研出版）、COMET 英単語学習ノート①（数研出版）	
評価法		定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノート、振り返りシートで評価する。	
評価 観点	a	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともにこれらの知識を実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。
	b	思考・判断・ 表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細などを的確に理解したりこれらを活用して適切に表現したり伝えあったりする力がある。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（Ａ、Ｂ、Ｃの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4 月	Lesson 1 Lesson 2	What Did You Do in Japan? 動詞の過去形の用法を理解する。 When Do You Feel Happy? 進行形の用法を理解し、会話を読み取る能力を身につける。	中間考査	中間 考査	振り返り シート
5 月	Lesson 3 Lesson 4	*Onigiri* Goes Overseas 助動詞を理解し、短い例文を書いたり、ペアで話し合ったりする。 Pictograms ｔo-不定詞に関する理解をもとにTOOLBOXの語句を用いて伝えたり相手からの質問に答える技能を身につける。	小テスト	パフォー マンス 課題	ノート
6、７月	Lesson 5	Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler 動名詞を理解し、本文の内容を読み取り概要や要点を把握する。	期末考査	期末考査	
9 月	Lesson 6	Convenience Stores: Keys to Their Success 取り上げられた語句を適切な文脈において使用する。that-節に関する事項を理解する。	中間考査	中間考査	振り返り シート
10 月	Lesson 7	High School Aquarium 現在完了形の用法を理解するとともにインタビューの内容を読み取る。	小テスト	パフォー マンス 課題	
11，12 月	Lesson 8	Smart Farming スマート農業について理解を深めるために本文の内容を読み取り概要や要点を把握する。受け身を理解する	期末考査	期末考査	ノート
1 月	Lesson 9	Food Waste 比較の事項を理解し、本文の内容について学習した語彙や言語材料を用いて自分の意見を話したり、書いたりする。	小テスト 学年末 考査	パフォー マンス 課題	振り返り シート
2，3 月	Lesson１０	William and His Windmill 自分の気持ちや考えを伝えるために関係代名詞を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりする。		学年末 考査	ノート

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業技術基礎	機械科	3	1年	1･2組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を育成する。 ・工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・工業の意義や役割を理解させ、工業技術に関する広い視野をもち、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
教科書 (出版社名)		工業技術基礎（実教出版）	
副教材・ 参考書		機械実習１・２・３（実教出版）	
評価法		実習の取組、レポート、定期考査	
評価 観点	a	知識・技術	工業技術について工業の持つ社会的な意義や役割と人と技術の関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
第１回 ～ 第４回	旋盤実習 溶接実習 手仕上げ実習 計測実習	旋盤の基本操作 ガス溶接 スコヤの製作 ノギスの測定法	定期考査 課題作品 実習取組	定期考査 レポート 実習取組	レポート 実習取組
第５回 ～ 第 12 回	旋盤実習 溶接実習 手仕上げ実習 計測実習	端面切削・外丸削り ガス溶接・ガス溶断 メモホルダーの製作・メモホルダーの製作 マイクロメータの測定法と性能試験	定期考査 課題作品 実習取組	定期考査 レポート 実習取組	レポート 実習取組
第 13 回 ～ 第 20 回	旋盤実習 溶接実習 手仕上げ実習 計測実習	段付き切削、引張試験片の製作 交流アーク溶接、半自動溶接 メモホルダーの製作 ﾀﾞｲﾔﾙｹﾞｰｼﾞおよびｼﾘﾝﾀﾞｹﾞｰｼﾞによる測定法 ダイナモラジオライトの製作	定期考査 課題作品 実習取組	定期考査 レポート 実習取組	レポート 実習取組

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
製図	機械科	2	1年	1･2組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な基礎的な資質・能力を育成する。そのために、製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決力を養う。	
教科書 (出版社名)		機械製図（実教出版）	
副教材・ 参考書		機械製図ワークノート（実教出版）	
評価法		定期考査、課題図面、授業の取組、振り返りシート	
評価 観点	a	知識・技術	工業の機械に関する製図について日本産業規格および国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業の機械分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指し自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数 など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4月	機械製図と規格	図面の役目と種類、製図の規格	中間考査 課題図面 期末考査	中間考査 課題図面 期末考査	授業取組 振り返り シート
	製図用具とその 使い方	製図用具、製図用具の使い方			
5月	図面に用いる 文字と線	文字、線			
	基礎的な図形の かき方	基礎的な作図、直線と円弧・円弧と円弧のつなぎ方、 平面曲線			
6月、7月	投影図のえがき方	投影法、投影図のえがき方			
9月	立体的な図示法	等角図のえがき方、キャビネット図、カバリエ図、 テクニカルイラストレーション	中間考査 課題図面 期末考査	中間考査 課題図面 期末考査	授業取組 振り返り シート
10月	展開図	立体の展開図、相貫体とその展開図			
11月、12月	製作図のあらまし	製作図、尺度、図面の様式、製作図のかき方と検図、 図面の管理			
1月	図形の表し方	図の選び方と配置、切断図示、特別な図示方法、 線・図形の省略			
2月	寸法記入法	基本的な寸法記入法、いろいろな寸法記入法、 寸法記入についての留意事項	課題図面 期末考査	課題図面 期末考査	授業取組 振り返り シート
3月	公差・表面性状	サイズ公差、はめあい、幾何公差、普通公差、表面性状			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業情報数理	機械科	2	1年	1･2組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を育成する。 ・工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割を理解する。 ・情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、対応し解決する力を養う。 ・工業の各分野において情報技術及び情報手段を活用する力を主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。	
教科書 (出版社名)		工業情報数理（オーム社）	
副教材・ 参考書		計算技術検定３・４級問題集（全国工業高等学校長協会） 情報技術検定問題集　２・３級Ｃ言語　新訂版（実教出版）	
評価法		授業時の学習状況、定期考査、成果物、ノートにより観点別に評価する。	
評価 観点	a	知識・技術	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び修理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（Ａ、Ｂ、Ｃの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4 月	産業社会と 情報技術	知的財産や情報モラルおよび、情報セキュリティーについて学習し、安全に情報を活用できるようになる。	中間考査 成果物 期末考査	中間考査 取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
5 月	コンピュータ システム	2 進法・16 進法・論理回路を通して、ディジタル表現の仕組みや特徴について理解する。			
6 月	コンピュータ システム	オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトについて理解する。			
7 月	コンピュータ システム	情報通信ネットワークの仕組みについて理解するとともに活用方法について学習する。			
9 月	データの活用 数理処理	実習により得たデータをもとに表計算ソフトが使用できるようになる。また、工業で用いる基礎的な数理処理を、表計算ソフトを用いて行えるようになる。	中間考査 成果物	中間考査 取組姿勢	ノート レポート 学習状況
10 月	アルゴリズムと プログラミング	数理処理の流れを理解し、フローチャートが描けるように学習する。また、フローチャートよりプログラミング言語で実際にプログラムを作成する実習を行う。			
11 月	アルゴリズムと プログラミング	数理処理の流れを理解し、フローチャートが描けるように学習する。また、フローチャートよりプログラミング言語で実際にプログラムを作成する実習を行う。	成果物 期末考査	取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
12 月	数理処理	PC を用いる実習機器の操作方法やネットワークについて学習する。			
1 月	コンピュータ ネットワーク	コンピュータネットワークを利用した情報交換の利点について理解させ身近なコンピュータネットワークについて学習する。	成果物 期末考査	取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
2 月	コミュニケーション と情報デザイン	コミュニケーションとメディアの関係について理解する。			
3 月	モデル化と シミュレーション	モデル化の手順･方法と様々なモデルの作成とシミュレーションについて理解する。			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
機械工作	機械科	2	1年	1･2組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を育成する。 ・機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 ・工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
教科書 (出版社名)		機械工作１・２（実教出版）	
副教材・ 参考書		機械工作１・２　演習ノート　新訂版（実教出版）	
評価法		定期考査、小テスト、課題プリント、ノート、授業の取組み、振り返りシート	
評価 観点	a	知識・技術	機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4 月	工業計測と 測定機器	計測の基礎、測定器、長さの測定、その他の測定	中間考査 小テスト 課題 プリント 期末考査	中間考査 課題 プリント 期末考査	授業取組 ノート 課題 プリント 振り返り シート
5 月	材料の 機械的性質	機械材料に望まれる性質、おもな機械材料、機械的性質とその試験法			
6 月	金属の結晶と 加工性	金属・合金の結晶と状態変化、金属材料の変形と結晶、金属材料の加工性			
7 月	鉄鋼材料	鉄鋼の製法、炭素鋼の性質と分類、純鉄の変態と結晶構造、炭素鋼の組織と熱処理、炭素鋼の種類と用途、合金鋼・特殊鋼、鋳鉄、鋳鋼			
9 月	非鉄金属材料	アルミニウムとその合金、マグネシウムとその合金、チタンとその合金、銅とその合金、ニッケルとその合金、亜鉛・鉛・すずとその合金	中間考査 小テスト 課題 プリント 期末考査	中間考査 課題 プリント 期末考査	授業取組 ノート 課題 プリント 振り返り シート
10 月	非金属材料	プラスチック、セラミックス、ガラス			
11 月	各種の材料	機能性材料、複合材料			
12 月、１月	鋳造法と鋳型	鋳造と鋳物、砂型鋳造法、金型を使った鋳造法、各種の鋳造法	小テスト 課題 プリント 期末考査	課題 プリント 期末考査	授業取組 ノート 課題 プリント 振り返り シート
2 月	金属の溶解方法と 鋳物の品質	溶解方法、鋳物の品質			
3 月	溶接と接合	各種の接合法、溶接法の分類			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業技術基礎(電気科)	電気科	3	1年	3･4組	全期

項目			内容
学習の目標			1 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 2 工業技術に関する課題を発見し，工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 3 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
教科書 (出版社名)			工業技術基礎（実教出版）
副教材・ 参考書			実験書およびプリント レポート用紙、グラフ用紙、電卓、筆記用具、その他
評価法			学習状況、技能、成果物および報告書（レポート）により総合的に評価する。
評価 観点	a	知識・技術	実験や実習の意義を理解して取り組み、基本的な操作やデータ収集を行える。また、電気的な作業を安全に確実に行える。
	b	思考・判断・ 表現	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして，広い視野からみずから思考し，基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し，その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業技術について主体的に興味・関心を持ち，その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに，　社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4・5 月	オリエンテーション 電気工事 計測実習 パソコン利用	工業技術基礎のオリエンテーション 電線の接続 1(ケーブル工事基礎) 電圧計･電流計の取扱、可変抵抗器の取扱 パソコンの取扱い	技能 結果・成果 授業プリント	技能 レポート グループワーク	学習状況 考察内容
6・7 月	計測実習 電気工事配線 情報利用	電流の分流，電位降下法 スイッチ回路と他負荷 パソコン利用(C 言語①)			
9･10 月	計測実習 電気工事配線 情報利用	サーキットテスターの製作 スイッチ付コンセント回路 パソコン利用(C 言語②)			
11・12 月	計測実習 電気工事配線 情報利用	キルヒホッフの法則，ホイートストンアリッジ測定 多灯点滅回路，　3 路スイッチ回路 パソコン利用（ワープロソフト)	技能 結果・成果 授業プリント	技能 レポート グループワーク	学習状況 考察内容
1・2・3 月	計測実習 電気工事配線 情報利用	オシロスコープの取扱、ジュールの法則 金属管、PF 管、管工事基礎 パソコン利用（表計算ソフト)	技能 結果・成果 授業プリント	技能 レポート グループワーク	学習状況 考察内容

※授業は 10 名を 1 グループとして、各単元を 1 授業（3 時間）毎にローテーションして行う。(電気工事配線については 2 グループ同時に行う。)

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業情報数理	電気科	2	1年	3･4組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を育成する。 ・工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割を理解する。 ・情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、対応し解決する力を養う。 ・工業の各分野において情報技術及び情報手段を活用する力を主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。	
教科書 (出版社名)		工業情報数理（オーム社）	
副教材・ 参考書		計算技術検定３・４級問題集（全国工業高等学校長協会） 情報技術検定問題集　２・３級Ｃ言語　新訂版（実教出版）	
評価法		授業時の学習状況、定期考査、成果物、ノートにより観点別に評価する。	
評価 観点	a	知識・技術	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び修理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（Ａ、Ｂ、Ｃの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4 月 (6h)	産業社会と 情報技術	知的財産や情報モラルおよび､情報セキュリティーについて学習し、安全に情報を活用できるようになる。	中間考査 成果物 期末考査	中間考査 取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
5 月 (5h)	コンピュータ システム	2 進法・16 進法・論理回路を通して、ディジタル表現の仕組みや特徴について理解する。			
6 月 (10h)	コンピュータ システム	オペレーティングシステム及びアプリケーションソフトについて理解する。			
7 月 (3h)	コンピュータ システム	情報通信ネットワークの仕組みについて理解するとともに活用方法について学習する。			
9 月 (8h)	データの活用 数理処理	実習により得たデータをもとに表計算ソフトが使用できるようになる。また､工業で用いる基礎的な数理処理を､表計算ソフトを用いて行えるようになる。	中間考査 成果物	中間考査 取組姿勢	ノート レポート 学習状況
10 月 (7h)	アルゴリズムと プログラミング	数理処理の流れを理解し､フローチャートが描けるように学習する。また、フローチャートよりプログラミング言語で実際にプログラムを作成する実習を行う。			
11 月 (8h)	アルゴリズムと プログラミング	数理処理の流れを理解し､フローチャートが描けるように学習する。また、フローチャートよりプログラミング言語で実際にプログラムを作成する実習を行う。	成果物 期末考査	取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
12 月 (5h)	数理処理	PC を用いる実習機器の操作方法やネットワークについて学習する。			
1 月 (6h)	コンピュータ ネットワーク	コンピュータネットワークを利用した情報交換の利点について理解させ身近なコンピュータネットワークについて学習する。	成果物 期末考査	取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
2 月 (6h)	コミュニケーション と情報デザイン	コミュニケーションとメディアの関係について理解する。			
3 月 (3h)	モデル化と シミュレーション	モデル化の手順･方法と様々なモデルの作成とシミュレーションについて理解する。			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
電気回路	電気科	4	1年	3･4組	全期

項目		内容	
学習の目標		1　電気回路について電気的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付ける。 2　電気回路に関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 3　電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
教科書 (出版社名)		電気回路１、電気回路２（実教出版）	
副教材・ 参考書		電気回路１・２演習ノート	
評価法		授業時の学習状況、定期考査、小テスト、提出物(プリント)、ノートにより観点別に評価する。	
評価 観点	a	知識・技術	各単元の基礎知識の習得と、電圧、電流、抵抗について理解し、計算により具体的に数値で表現できる。
	b	思考・判断・ 表現	基本的な電気現象の意味を考え、計算し変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	各単元の基礎的な内容を、既に学習した基礎的な電気の特徴から理解し、共通点や疑問点、課題を見つけ表現できる。また電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4 月 (12h)	電気回路の要素	電気回路の基礎となる電圧、電流、抵抗値の関係、交流・直流の違い、コイル、コンデンサの特徴について学習する。	中間考査 小テスト 提出物 期末考査	中間考査 小テスト 提出物 期末考査	提出物 学習状況
5 月 (9h)	直流回路	オームの法則、キルヒホッフの法則について直流回路を用いて、電流、電圧、抵抗値を求められるようになる。			
6 月 (16h)	直流回路	電力と熱の関係についてジュールの法則を用いて計算する。また、抵抗と導電率について学習する。			
7 月 (8h)	直流回路	電流の化学的作用と、電池について学習する。			
9 月 (16h)	静電気	電荷の周囲に派生する電界についての学習と、電位と静電容量について学習し、コンデンサの仕組みを理解する。	中間考査 小テスト 提出物 期末考査	中間考査 小テスト 提出物 期末考査	提出物 学習状況
10 月 (13h)	磁気	電流とその周りに発生する磁界との関係について学習する。			
11 月 (17h)	磁気	電流とその周りに発生する磁界との関係について学習する。磁気回路について学習する。			
12 月 (9h)	磁気	コイルの電磁誘導および自己誘導について学習する。			
1 月 (13h)	磁気・交流回路	コイルの電磁誘導および自己誘導について学習する。 正弦波交流の特徴について学習する。	小テスト 提出物 期末考査	小テスト 提出物 期末考査	提出物 学習状況
2 月 (10h)	交流回路	交流回路の電流・電圧の特徴について学習する。			
3 月 (8h)	交流回路	交流回路の電流・電圧の特徴について学習する。			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業技術基礎	環境化学科	3	1年	5組	全期

項目			内容
学習の目標			工業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。工業のもつ社会的な意義や役割を認識させ、工業技術を学ぶ上で必要な、科学的な根拠に基づいた課題解決能力の定着や化学技術のみにとどまらず広い視野で工業技術を修得させ、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを目標とする
教科書 (出版社名)			工業技術基礎（実教出版）
副教材・ 参考書			実習テキスト（本校作成）　工業化学１（実教出版）
評価法			実習の取組姿勢、レポート内容、定期考査を総合的に判断する。
評価 観点	a	知識・技能	工業技術について工業の持つ社会的な意義や役割と人と技術の関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けているとともに、工業技術に関する基礎的な知識を理解し、環境保全の意識をもって化学技術を修得しようとしている。
	b	思考・判断・ 表現	正確な測定や作業を行うために必要なデータから、何故そうなるのかを考察し、実験結果等から理論的に考えることができる。工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	化学実験等に必要な正確な作業を注意深く行うことができる態度や、レポート等の提出課題の完成度を上げようと作成することができる。工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
４月	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 基礎実習　1 基礎実習　2	工業技術基礎について説明 希釈：希釈による溶液調整法 溶解：溶解による溶液調整法	小テスト 実技内容 レポート	実技内容 レポート 興味,関心 意欲,判断	実技内容 レポート 興味関心 意欲姿勢
前期 （５月～10 月）	基礎実習 化学計測 製図 情報処理	ガラス細工、混合物の分離、蒸留 薬品の性質、酸塩基に性質、水質検査 個体の密度の測定、液体の密度の測定、気体の密度と状態方程式 論理回路、アルゴリズム・流れ図、プログラミング	小テスト 実技内容 レポート	実技内容 レポート 興味,関心 意欲,判断	実技内容 レポート 興味関心 意欲姿勢
後期 （11 月～３月）	定性分析 定量分析	定性分析 陽イオンの分属試薬とその反応 　第１属陽イオンの分析 　第３属陽イオンの分析 　第５属属陽イオンの分析 　未知資料の分析 定量分析 ガラス計量器の使用方法（ビュレット・ピペット） 0.05mol/L　Na_2CO_3 標準溶液の調整 0.1 mol/L　HCℓ溶液の調整と評定 0.1 mol/L　NaOH の調整と評定 食酢中の酢酸の定量	小テスト 実技内容 レポート	実技内容 レポート 興味,関心 意欲,判断	実技内容 レポート 興味関心 意欲姿勢

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
製図	環境化学	2	1	5組	全期

項目		内容	
学習の目標		工業の各分野に関する製図について理解と基本的な技術を身に付け、図面の作成及び情報を読み取る力を付ける。日本産業規格および世界標準化機構規格を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通して安全で安全な製品などについて主体的に学ぶ力を育成する。	
教科書 (出版社名)		製図（実教出版）	
副教材・ 参考書		製図ワークノート（実教出版）、プリント、製図用具　電卓	
評価法		製図課題、パフォーマンス課題、ワークノート、プリント、定期考査、振り返りシートで評価する。	
評価 観点	a	知識・技術	工業の各分野に関する製図について日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4月 （7h）	製図用具の 使い方 線・図面に 用いる文字の書き方	図面の役割、製図を学ぶ意味（日本産業規格）を理解する。 線、文字、数字を反復練習する。 製図用具の使い方になれ、フリーハンドによる製図能力を養う。	ワーク ノート 小テスト 期末考査	ワーク ノート パフォーマンス 課題 期末考査	ノート 振り返り シート
5月 （6h）	平面図形の かき方 投影図の 書き方	正投影法による図示法を理解し、３面図が正しくかけるようにする。			
6、7月 （10h）	品物の形状が一目でわかる方法	品物の形状が一目でわかる方法（等角図）を理解し、正しくかけるようにする。			
9月 （8h）	等角図の書き方	等角図を理解し、正しくかけるようにする。	ワーク ノート 中間考査 小テスト	ワーク ノート 中間考査 パフォーマンス 課題	ノート 振り返り シート
10月 （9h）	立体的な図示法 展開図	品物の内部の表し方（断面図）を理解し、ハッチングが正しく描けるようにする。 大きさの表し方（寸法）を理解し描けるようにする。			
11，12月 （13h）	補助投影図 展開図の描き方	補助投影図を理解する。 展開図の描き方を理解し、正しくかけるようにする。			
1月 （6h）	要素製図 ねじ （ﾎﾞﾙﾄ・ナット）	ねじの名称と種類を理解し、その表し方で作図する。 ボルト・ナットのかき方を理解する。	パフォーマンス 課題 小テスト	パフォーマンス 課題 ワーク ノート	振り返り シート ノート
2，3月 （11h）	各種の製図 （水素化ﾌﾟﾗﾝﾄ）	工程図記号を理解し、工程図を作図する。（水素化プラント）			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業情報数理	環境化学科	2	1年	5組	全期

項目			内容
学習の目標			工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を育成する。 ・工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割を理解する。 ・情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、対応し解決する力を養う。 ・工業の各分野において情報技術及び情報手段を活用する力を主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
教科書 (出版社名)			工業情報数理（オーム社）
副教材・ 参考書			計算技術検定３・４級問題集（全国工業高等学校長協会）
評価法			授業時の学習状況、定期考査、成果物、ノートにより観点別に評価する。
評価 観点	a	知識・技術	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び修理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
	b	思考・判断・ 表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する能力を身に付けている。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点 a	評価観点 b	評価観点 c
4 月 (6h)	産業社会と 情報技術	知的財産や情報モラルおよび、情報セキュリティーについて学習し、安全に情報を活用できるようになる。 タイピングの練習	中間考査 成果物 期末考査	中間考査 取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
5 月 (5h)	コンピュータシステム	コンピュータの取り扱う情報について、基礎的な知識を理解する。小数・有効数字			
6 月 (10h)	数理処理	三角関数（ｓｉｎ・ｃｏｓ・ｔａｎ）（ｌｏｇ・指数） 度数法（ＤＥＧ）弧度法（ＲＡＤ）			
7 月 (3h)	数理処理	データのまとめ方　　集計計算　実務計算　順列･組合せ			
9 月 (8h)	コンピュータシステム	ソフトウエア ワープロソフトを利用　基本文書作作成	中間考査 成果物 興味,関心 意欲,判断	中間考査 取組姿勢	ノート レポート 学習状況
10 月 (7h)	コンピュータシステム	ソフトウェア わかりやすい情報伝達について学習し、都道府県 PR ポスター各自制作する。			
11 月 (8h)	コンピュータシステム	わかりやすい情報伝達について学習し、都道府県 PR ポスター各自制作する	成果物	取組姿勢 発表の様子	成果物 発表の様子 学習状況
12 月 (5h)	コンピュータシステム	プレゼンテーション 情報発信について学習し、各自で作成したポスターを発表する。			
1 月 (6h)	プログラミング基礎	プログラム言語を理解し簡単なプログラミングを学習する。	成果物 期末考査	取組姿勢 期末考査	ノート レポート 学習状況
2 月 (6h)	プログラミング基礎	プログラム言語を理解し簡単なプログラミングを学習する。			
3 月 (3h)	コンピュータ ネットワーク	コンピュータネットワークを利用した情報交換の利点について理解させ身近なコンピュータネットワークについて学習する。			

科目名	担当科	単位数	履修学年	履修クラス	期
工業化学	環境化学	2	1年	5組	全期

項目			内容
学習の目標			物質の性質や変化などの化学の概念や原理を理解するとともに、実際の化学工業製品の製造における工業技術の発展に結びつけて主体的に学習する。工業化学に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた工業生産技術について自ら考える力を育てる。
教科書 (出版社名)			工業化学１（実教出版）
副教材・ 参考書			配布プリント、工業化学１・２演習ノート（実教出版）
評価法			定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、プリント・ノート、振り返りシートで評価する。
評価 観点	a	知識・技術	工業化学について化学の概念や原理と化学工業との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
	b	思考・判断・ 表現	工業化学に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
	c	主体的に学習に 取り組む態度	材料や化学製品を製造する力の向上を目指して自ら学び、化学工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評点（１～５の５段階）にまとめます。			

＜授業計画＞

学期/月/回数など	単　元　名	授業内容	評価観点		
			a	b	c
4月 （4ｈ）	人のくらしと化学 物質と化学	人のくらしと化学について、SDGS に関する学習。 化学とは 化学工業について 物質	中間考査	中間考査	ノート プリント
5月 （8ｈ）	物質と化学	物質とは、純物質と混合物とは 元素・原子･分子･イオンについて 周期律表の規則性について	小テスト	パフォーマンス課題	
6、7月 （10ｈ）	物質と化学	原子の構造と電子配置について理解する。 物質を表す式、化学式と物質名について 電気陰性度、化学結合から結晶格子について	期末考査	期末考査	振り返りシート
9月 (6ｈ)	物質と化学	化学式と物質名について 化学反応式（完全燃焼の化学式、その他の化学式）	中間考査	中間考査	ノート プリント
10月,11月 (14ｈ)	物質の変化と量	化学反応式について 分子量・式量・モル・アボガドロ数について	小テスト	パフォーマンス課題	
12月 （2ｈ）	物質の変化と量	化学反応式と物質の量の関係について 水と空気	期末考査	期末考査	振り返りシート
1月,2月 （13ｈ）	物質の変化と量 溶液の性質	化学反応式と物質の量について 溶液とその性質、イオンの性質と濃度 溶液の濃度の考え方を理解し計算で求められるようにする。	小テスト 期末考査	パフォーマンス課題	ノート プリント 振り返りシート
3月 （2ｈ）	溶液の性質	溶解度、浸透圧、コロイド溶液について理解する。		期末考査	